

## 出雲流庭園に触れる。

嘉藤 剛

8月下旬とても魅力的な、分科会案内メールが届きました。庭園文化研究分科会の庭園視察会のお誘いです。「普段は絶対に見られない個人宅のプライベート庭園を見ることが可能!」「昼食は1日1組限定松翠苑」。レア度たっぷりの案内に、庭園の知識の無い私も一度参加してみたいと思わず応募してしまいました。そして初めて庭園というものを見学させていただきましたが庭園ってなかなか面白いものですね、というのが率直な感想です。このレポートでは本来ならば出雲流庭園に関する研究を記載しなければいけませんが、まったくの初心者なものでして、技法等についてはまだまだ語れるレベルではありませんので今回の視察をした感想ということでレポートとさせていただきたい。

### ・ 庭園視察

今回は、3軒のお宅と松翠苑の4つの庭園を見させていただきました。初めての視察でしたが、すばらしい体験となりました。

まずは1軒目のお宅、立派な築地松と家の門に驚かされました。

築地松は家を風や水害から守り、まさに土地を築いた大きな松だと感じました。この松(P1)を松くい虫から守るため早くから注射による防除をしてこられたとのことで、そのご苦労には頭が下がります。さてお庭は事前に陰手刈師さんに説明いただいた燈籠や飛び石・短冊石等の石材があり、鮮やかな木々主体の落ち着いた佇まいだと感じました。また、こちらのお庭に用いられている庭石は、あまり大きな石ではなく300年以上の歴史を感じさせるお庭もありました。



P1.歴史を感じさせる門と築地松



P2.落ち着いた趣の庭

次に 2 軒目のお宅、こちらは巨石を用いた立体的でごつく、迫力のある庭園であると感じました。この庭園は近年作られたもので、庭園作りの機械化により巨石の搬入が可能になったからだということで、大きな蹲踞や短冊石などが用いられた現代の出雲流庭園であると感じました。



P3.大きな短冊石と蹲踞



P4.立体的な庭を演出する巨石と石橋

続いて 3 軒目のお宅、こちらお庭は前出 2 つの中間的なお庭で、大きな石が用いられつつも緑が多く落ち着いた感じの庭園で、造られた時期も 2 つのお庭の間とのことであり、今回の視察会で、庭作りの歴史も感じることができました。さらにこちらお宅の築地松は、松の枝が地表までありました。これは水害によって土や漂流物が家に入るのを防ぐことを一つの目的とされており、斐川平野における築地松の重要性を改めて感じました。



P5.こちらも落ち着いた佇まいの庭



P6.地表付近まで枝のある築地松

最後4軒目の松翠苑。こちらも旧家であり、まずは立派な門。このようなところがあったことにまずびっくりだったのですが、庭園の方も、これまでの総決算という感じの素晴らしいものでした。しかし、素人の私が一つ疑問に思ったことがあります。それは、今回視察したどのお宅の庭園も飛び石の一つが石臼がありました。なぜこのようなものがあるのでしょうか？と思いましたが、今回のスペシャルガイド（陰手刈師の三島さん）によりあっさり解決。庭が石臼のようにどっしりと落ち着くようにという縁起担ぎ（諸説あるようです）というお話で、なるほど面白いと思いました。



P7.松翠苑内の庭園。石臼も見られる

#### ・私が思った出雲流庭園とは？ 他の庭園も見学して

前記4軒のお宅と松翠苑の庭を拝見させてもらい、他の庭園も見てみたいと感じて調べたところ、松江市にある松江歴史館に出雲流庭園があるということで見学に行ってみました。たしかに立体的なお庭、飛び石・短冊石・燈籠と中央の松と出雲流庭園的技法が用いられた庭園であるなとは感じましたが、なにか4軒と違うものを感じました。松江歴史館は、きれいな施設で庭を落ち着いて見学できるよう畳の部屋もあり、しかも庭園は無料で見学が可能と、とてもすばらしい施設だったのですが。



P8.松江歴史館内の出雲流庭園南側



P9.松江歴史館内の出雲流庭園北側

私は、その一つの要因として生活感があるのではないかと感じました。もちろん松江歴史館は公共の施設なので、それは持ち合わせてはいませんが、この庭園には石臼や人を迎える「かえる」の置物や築地松ではなく、人の生活の中にある、家の庭というものは感じられませんでした。やはり、人の生活があってこそ出雲流庭園ではないかと今回は思いました。

## ・学び

今回のこの視察会に参加させていただいたことにより、庭園って結構は面白いものだ感じるとともに、人のお宅に行く楽しみが一つ増えたことに感謝です。先日も仕事先のお宅に行き、燈籠と松を見たときには胸躍りました。そしてひとつ学んだことは庭園を持つ人の心のゆとり大きさがあります。

20人を超える大勢の見学者をお客として迎えお茶までごちそうされるという、もてなしの心、これが庭園をもつことができる方の心意気なのだなと思いました。

また、庭園は自分で楽しむものである物の一方でその家を訪ねてこられるお客様をもてなすツールでもあり、このもてなしの心こそが、出雲流庭園を素晴らしいものであると感じることができた一番の要因ではないかと自分は思いました。

自分の家ではとても立派な庭園を造ることなどできませんが、今回学んだ心意気だけでも大切し、実践していきたいと思います。

この視察会を開くために奔走された庭園文化研究分科会の皆様、快く庭園見学をさせていただいた各家の方々、新たな気づきと楽しみをいただきありがとうございました。



P10. もてなしの心に、ただただ感謝